

東京2020大会に向けた 全国的な取組について

平成30年3月28日

栃木県 総合政策部 総合政策課



栃木県

Tochigi Prefectural Government

目次

| | | |
|---|--------------------------------|----|
| 1 | 東京オリンピック・パラリンピック フラッグツアー | 1 |
| 2 | 東京2020参画プログラム | 4 |
| 3 | 東京2020教育プログラム | 6 |
| 4 | 東京2020大会マスコット | 9 |
| 5 | 日本の木材活用リレー | 11 |
| 6 | 都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト | 13 |

1 東京2020オリンピック・パラリンピック フラッグツアー

① フラッグツアーについて

- リオ2016オリンピック・パラリンピック閉会式で小池都知事がリオ市長からオリンピックフラッグ、パラリンピックフラッグを引継ぎ、東京オリジナルのツアーフラッグを作成



Photo by 東京都/Tokyo2020

オリンピックフラッグ パラリンピックフラッグ



ツアーフラッグ (サイズ : W1.5m×H1.0m)

- 東京2020大会に向けた機運を醸成するため、平成28年から東京都、東日本大震災の被災3県及び熊本県で先行実施された「東京2020オリンピック・パラリンピック フラッグツアー」が、平成29年7月から平成31年3月まで、全国を北、南ルートに分けて実施されている

日本全国での東京2020オリンピック・パラリンピック フラッグツアー

主催：東京都、東京2020組織委員会、JOC（日本オリンピック委員会）、
JPC（日本パラリンピック委員会）

開催時期：平成29年7月～平成31年3月

※栃木県巡回期間は、平成30年6月5日（火）～7月3日（火）まで

（市町の巡回日程については調整中）

○フラッグ歓迎イベント

オリンピックフラッグ、パラリンピックフラッグをフラッグ ツアーアンバサダーから都道府県代表者等が引き継ぐイベント

※アンバサダーによるトークショーやデモンストレーションを実施



Photo by 東京都/Tokyo2020

○県内巡回フラッグ展示

オリンピックフラッグ、パラリンピックフラッグ、説明パネル等の展示セットを道府県内の公共施設等で巡回展示

※展示場所の調整に当たっては、大会スポンサーの配慮が必要

※展示キットの運搬・安全管理は各自治体が対応



Photo by 東京都/Tokyo2020

○小中学校訪問イベント

東京2020組織委員会が派遣するオリンピック、パラリンピアンが教師役となり、道府県内の小中学校を訪れ、自身の経験を通して「オリンピック・パラリンピックの価値」を伝えるイベント

※東京2020教育プログラム認証校が対象

2 東京2020参画プログラム

○東京2020参画プログラムとは

～オリンピック・パラリンピックは参加することに意義がある

- 東京2020大会を契機として、スポーツだけでなく、文化芸術や地域における世代を超えた活動、被災地への支援などにオールジャパンで皆が参加し、未来につなぐプログラム
- 様々な組織・団体がオリンピック・パラリンピックとつながりを持ちながら、大会開催に向けた機運醸成やレガシー創出に向けたアクション（イベント・事業等）を実施できる見込み

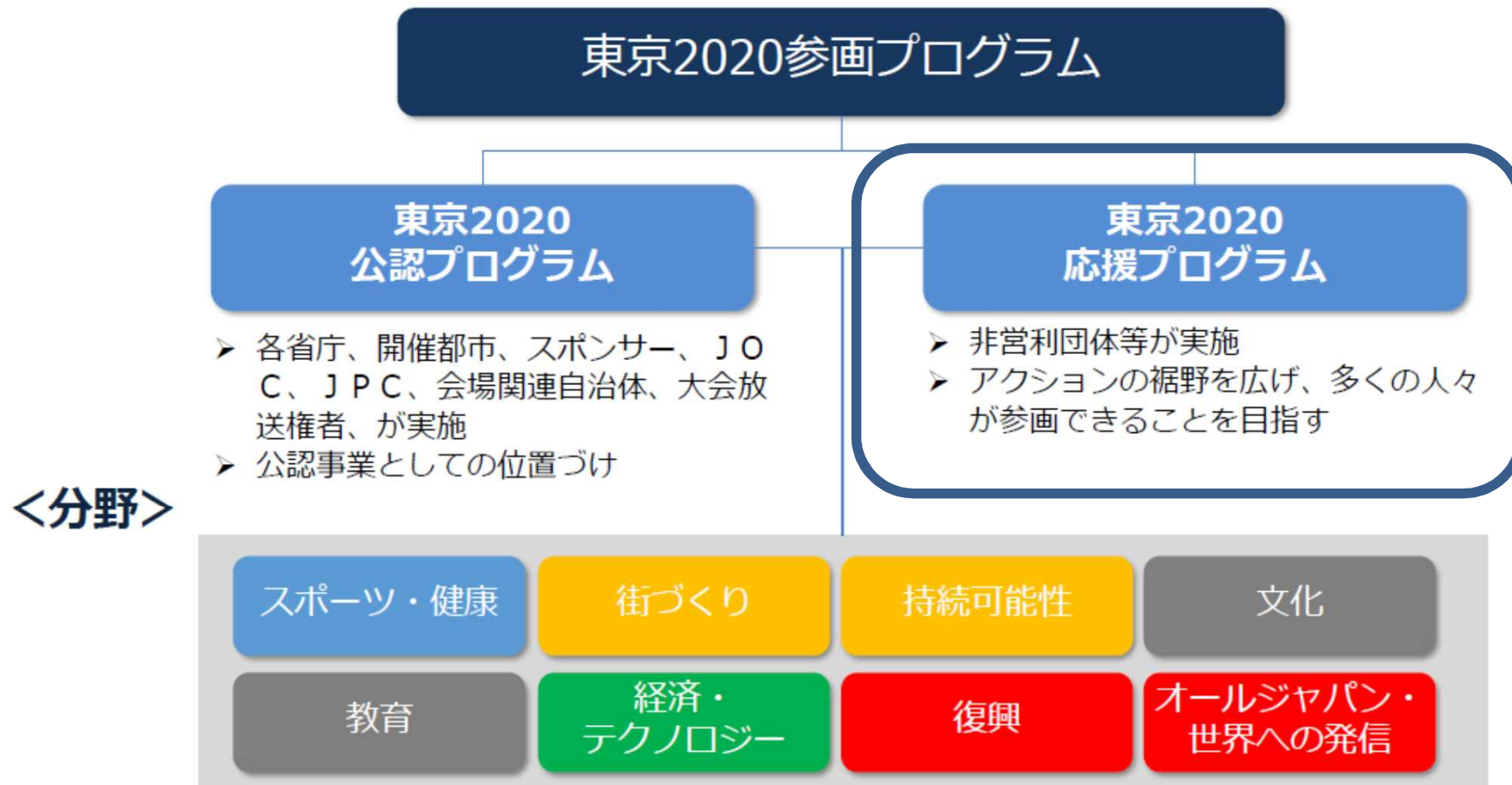


組織・団体のアクションへの認証・マーク付与

《応援マーク》



<2つのプログラム>



○栃木県内での実績

- ▶ お祭り屋台引き回しパレード (H29. 6. 17)
- ▶ プロジェクションマッピング (H29. 10. 20~21)
- ▶ 東京2020マスコット投票宣言 (H29. 12. 11)
- ▶ 東京オリンピック・パラリンピックに向けたシンポジウム (H30. 2. 2) など

3 東京2020教育プログラム

オリンピック・パラリンピックは、アスリートにとってのスポーツの祭典としてだけではなく、子供たちにとっても、チャレンジ精神やフェアプレー精神などのスポーツの価値を理解したり、障害を持った方や海外の文化・社会などの多様性に関する理解を深めるきっかけになるなど、将来の国際社会や地域社会で活動していくための貴重な機会となる。

大会組織委員会では、大会を通じて子どもたちがオリンピック・パラリンピックの価値やスポーツの価値を学ぶことで将来に向かって成長するとともに、レガシーを創出することを目的に、「東京2020教育プログラム」（愛称：「ようい、ドン！」）を展開している。

オリンピック・パラリンピック教育が子どもたちに与えられるもの（レガシー）

自信と勇気

失敗を恐れず自ら行動を起こす人材、将来に向かって自信と勇気を兼ね備えた人材を育てていく

多様性の理解

障がいの有無、人種、言語等、様々な違いがあることを理解しつつ、共につながり、助け合い、支え合って生きていく力を身に付ける

主体的・積極的な社会参画

東京2020大会を契機に、国際社会や地域社会の活動に関心を持って、主体的、積極的に社会に参画できる人材を育てていく

○学校事業認証について

- 東京2020教育プログラムの一環としてオリンピック・パラリンピック教育に取り組む学校の教育事業を、東京2020組織委員会が東京2020オリンピック・パラリンピック教育実施校（愛称：「ようい、ドン！スクール」）として認証
- 児童生徒がオリンピック・パラリンピック、スポーツの価値を学習する機会や、多様な国や文化に触れる機会、アスリートと交流できる機会等を促進し、2020年やその先に向けた、次代を担う人材を育てることを目的
- 47都道府県中35都道府県に所在する学校が認証（H30. 3. 1現在）
栃木県 204校
※政令市を除く都道府県では東京、神奈川、埼玉に次ぐ4位

○認証校に対する今後の取り組み予定（一部の学校に対する取り組み）

- 東京2020オリンピック・パラリンピック フラッグツアーによるオリンピック等の学校訪問
- 東京2020大会マスコットによる学校訪問

4 東京2020大会マスコット

○東京2020大会マスコットの投票について

➤東京2020大会マスコットの選定では、過去大会にはなかった史上初の試みとして全国の小学生による投票が実施された。

- ・投票受付期間 (H29. 12. 11～ H30. 2. 22)
- ・結果発表 H30. 2. 28



➤小学生投票結果

- ・全国で16,769学校（小学校、特別支援学校小学部ほか）が投票に参加
本県でも363校が参加した。

投票参加率は全国平均の7割を大幅に上回る約94%

- ・投票に参加した学校関係者から、

「投票を機に、オリンピックや世界の国々への関心が一層高まった。」

などの意見が出されている。

- ・今後、マスコットのネーミングが決定され、今年の夏ごろに正式決定の予定



オリンピック マスコット



パラリンピック マスコット

※東京2020大会組織委員会ウェブサイトより転載

【オリンピック マスコット】

伝統と近未来がひとつになった温故知新なキャラクター。

伝統を重んじる古風な面と最先端の情報に精通する鋭い面をあわせ持っています。

正義感が強く運動神経バツグンで、どんな場所にも瞬間移動できます。

【パラリンピック マスコット】

桜の触角と超能力を持つクールなキャラクター。

普段は物静かなのに、いざとなるとパワフル。

凜とした内面の強さと自然を愛する優しさがあり、超能力を使って石や風と話したり、見るだけで物を動かします。

5 日本の木材活用リレー ～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～

全国の木材を使用して選手村ビレッジプラザを作ること、オールジャパンの大会参画を実現し、各地の木材を建物の様々な箇所に使うことで多様性と調和を表現する。

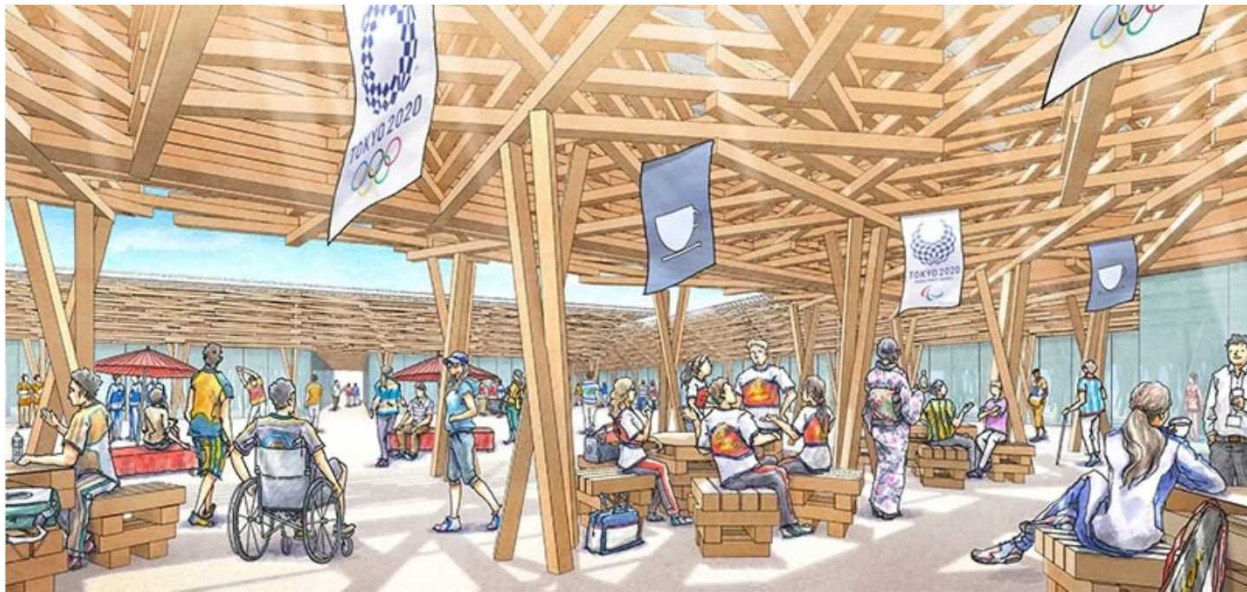
組織委員会では、環境に配慮した持続可能な大会を実現するため

- ・全国の自治体から無償で借り受けた木材を使用して「選手村ビレッジプラザ」を建設。
- ・大会後に解体された木材を各自治体の公共施設などでレガシーとして活用。

➤全国の63自治体が協力

➤本県からは、県・鹿沼市・日光市の3者が参加し、建物の部材としてスギ30m³を提供する予定

東京2020大会選手村ビレッジプラザ



※東京2020大会組織委員会ウェブサイトより転載

選手村ビレッジプラザは、チーム歓迎式典、花屋・雑貨店等の店舗、カフェ、メディアセンター等が配置され、認証を受けたオリンピック・パラリンピックファミリーや、メディア関係者、居住者の関係者が訪れる施設です。

感謝状



6 都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト

- 日本全国の国民が参加し、東京2020大会で使用するメダルの製作を目的に小型家電の回収を行い、集まったものから抽出された金属でメダルの製作を行うプロジェクト
- オリンピック・パラリンピック合わせて金・銀・銅約5,000個のメダルを製作する予定
回収受付期間 (H29. 4月～ H31. 春頃まで)
- メダルプロジェクトはオリンピック史上初の試み
栃木県ではすべての市町がメダルプロジェクトに参加しています



あなたの携帯電話や小型家電がメダルに生まれ変わる！



みんなの思いがこもったメダルを東京2020オリンピック・パラリンピックのアスリートに届けよう！